

全国都市再生モデル調査概要

1．応募団体名	静岡市 担当：経済部清水港振興課 杉本 連絡先：電話番号 054-221-1203 電子メール sugimoto_cc@city.shizuoka.shizuoka.jp
2．調査名	多彩な参加団体の連携による 清水港再発見・再活用調査
3．推薦団体名	国土交通省中部地方整備局 担当：港湾空港部港湾計画課 魚住 連絡先：電話番号 052-651-6475 電子メール uozumi-k852a@pa.cbr.mlit.go.jp
4．調査の対象地域	
(1) 対象となる行政 区域名、地区名等	静岡市 清水港周辺
(2) 対象となる行政 区域及び地区の特 徴	静岡市人口 約70万人 対象地区：特定重要港湾清水港及び周辺
5．提案した活動の内容	
(1) テーマ、課題	静岡市・清水市の合併（平成15年4月）によ り、市民の清水港への注目度が急速に高まってお り、「みなと色彩計画」による良好な景観形成等の 事業展開、魅力をさらにPRする必要がある。その ため現在活動している市民団体やボランティアの総 合的なネットワークづくりや学習拠点整備を目指し て本調査を実施する。
(2) 本調査費による 活動内容の概要 (提案者の活動)	本調査費により行われた活動内容の概要 1．調査検討会 計3回開催（15年12月～） 参加者 平均約60人 NPO、市民団体・学 識経験者、行政 ・お互いの団体を知り、連携先を探す ・すぐできそうな連携活動、時間をかけて進め る連携活動分け（すぐできそうなものから実 践）

2. 社会実験

(1) 環境美化活動

(16年1月18日、2月15日、3月10日、21日実施)

日の出地区で花壇植栽等を実施

参加者のべ約100名(主にNPO法人)

(2) みなとガイド育成研修

(16年2月13日、25日、3月5日)

ガイド育成・ガイドマニュアルの作成検討

先進港(横浜港)視察

参加者のべ約100名(主に市民団体)

(3) エコマネー勉強会

(16年2月12日)

相互援助システムとして導入検討・模擬体験

参加者約20名(主に市民団体)

【社会実験】環境美化活動



本調査以外の財源を投じたり、あるいは経費をかけずに、本調査の一環として行った活動内容の概要。

1. 客船(クリスタルセレニティ) 歓迎行事への当該調査関係団体の参加 (16年2月)

6. 本調査と関連する活動実績
(提案者とは別主体の活動)

1. 「清水港色彩計画」の推進

平成3年よりゾーン毎に配色を決め、周辺企業の協力により倉庫等の人工景観を自然景観と調和させるようにする色彩コントロール

2. 上記計画の新計画を策定

既存計画策定から10年以上が経過し、ゾーン毎の特色も変化してきたことから見直しを行い新計画を策定

*上記は国、県、市、民間、学識経験者、市民などで構成した協議会組織が主体となって進めた。

7. 本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など

【成果】

- ・港周辺で活動している団体が多く存在するものの相互のネットワークが確立されていなかった。
- ・多くの団体が活動の充実のために相互の連携を希望している。
- ・本調査の過程により団体名簿を作成したことから連携の基盤ができた。
- ・「すぐに取り組みそうな活動」として植栽活動などでの連携は効果を上げている。
- ・相互連携のシステム構築の手段としてエコマネーの有用性、導入の可能性を確認できた。
- ・今回調査に参加した団体を対象に年1回程度ではあるが活動発表会を継続し、意見交換やワークショップを行える基盤ができた。

【課題】

- ・企業の参加促進。(とくに市民団体の要望強い。)
- ・団体相互のネットワークを継続、発展させていく仕組みづくり。(協議会組織などが必要)
- ・市民団体、企業の代表が参画し、連携活動の企画運営を行い、それを関連行政機関が支援する「仮称 みんなのみなと(活動連携プラットフォーム)」への展開が必要。